

令和 5 年度三重大学国際交流事業実施報告書 (学内版)

1. 申請部局

学部・研究科名等：国際交流センター

---

事業担当者の職・氏名：福岡昌子

---

内線電話番号： 9698

---

電子メール： fukuoka.cie@mie-u.ac.jp

---

2. 事業の名称 (20 字以内, 別に副題を付けても良い)

「北京外国語大学：語学研修&フィールドスタディ 2023 (オンライン)」

3. 事業内容の別 (該当するところにチェックを入れてください。)

教職員, 学生の海外派遣 (学会やシンポジウム等の出席は除く)

海外交流機関等からの教職員, 学生の受け入れ

国際教育プログラムの開発や推進

その他 (オンライン)

**北京外国語大学: 語学研修&フィールドスタディ 2023(オンライン)**

国際交流センター 福岡昌子

**(1) 事業概要**

中国経済の躍進は目覚ましく、日本と中国をめぐる経済・社会・文化活動は今後も重要である。本学の学生に在学期間において、中国語や現代中国の状況を知る機会を提供し、将来国際的に活躍する人材を育成することを目的として本事業を企画した。本事業では、①中国語を学ぶ、②現代中国を知る、③協働学習を行って学生同士の交流を図る、④訪問先の都市の文化・社会を知る、を目的として、語学研修およびフィールドスタディを実施した。北京外国語大学の中文系・日文系・弁公室と協力し、中国語（北京語）の講習、日文系学生との交流を図った。

**(2) 事業の背景・これまでの実績**

日本語教育を中心とした国際交流事業の実績は下記の通りである。

- ①「ボランティア日本語教師養成講座 実践:日本語教育」(2004)『2004年度 三重大学国際交流基金国際交流事業, 600千円。
- ②『実践:日本語教育I & II 2007』(I. ボランティア日本語教師養成講座『実践日本語教育シンポジウム』, II. 『夏休みの宿題の助っ人:留学生の母語による学習支援』)『2007年度 三重大学国際交流基金国際交流事業, 600千円。
- ③「国際交流および日本文化学習のための京都研修―幕末～明治維新を留学生と共に学ぶ―」「三重大学国際交流基金国際交流事業」, 40千円
- ④「海外協定校の参加学生によるZoomディスカッションから学ぶ日本語と異文化理解(日本語ディスカッション)」令和3, 4, 5年度国際交流基金事業, 30千円
- ⑤「三重大学中国語学研修&北京外国語大学フィールドスタディ」令和4, 5年度国際交流基金事業, 50千円

**(3) 事業内容****(3)-1. 日程**

- I. 1月6日(土)～2月3日(土) 中国語語学研修
- II. 1月10日(水)～2月7日(水) 三重大学の学生と北京外国語大学日本語学科の学生との交流活動

**(3)-2. 参加者**

- ・三重大学5名:1年生1名,3年生1名,4年生3名 男1名女4名合計5名
- ・北京外国語大学14名:日本語学科(1年生2名,2年生11名,大学院1名),男5名女9名合計14名 \*出席率:中国語(三重大学):85%,日本語学科との交流:三重大学80%,北京外国語大学:86%

**(3)-3. 担当教員・講演者:**

実施責任者:三重大学国際交流センター福岡昌子,担当教師:Wang Tong先生(武蔵野大学),  
日本語学科講師:費曉東先生

●2023年度 三重大学中国語語学研修&北京外国語大学フィールドスタディ 日程表

1/6 (土)	1/13 (土)	1/20 (土)	1/27 (土)	2/3 (土)
三重大生対象の中国語講座 中国語オリエンテーション Wang Tong 先生のご紹介 10:05～10:55 中国語① 11:05～11:55 中国語② 11:55～12:00 連絡事項	9:00 Zoom 入室 9:05～9:55 中国語③ 10:05～10:55 中国語④ 11:05～11:55 中国語⑤ 11:55～12:00 連絡事項	9:00 Zoom 入室 9:05～9:55 中国語⑥ 10:05～10:55 中国語⑦ 11:05～11:55 中国語⑧ 11:55～12:00 連絡事項	9:00 Zoom 入室 9:05～9:55 中国語⑨ 10:05～10:55 中国語⑩ 11:05～11:55 中国語⑪ 11:55～12:00 連絡事項	9:00 Zoom 入室 9:05～11:00 ⑫テスト 11:00～11:55 中国語交流 北京外大の学生さんと中国語 で会話チャレンジ 11:55～12:00 Wang Tong 先生の講評
1/10 (水)	1/17 (水)	1/24 (水)	1/31 (水)	2/7 (水)
16:20 ①費曉東先生のご紹介 & お話—中国の春節について 16:40 ②両大学の学生の対面式 (自己紹介) ③テーマ・マッチング group の発表 ④模擬ディスカッションの 体験 ⑤模擬ディスカッションの 結果を発表 (PPT1 枚) 17:45 連絡事項	16:20 ①ディスカッションの方法に ついての説明 ②座長グループ検討会 -PPT 資料準備 (PPT 約 8 枚) 17:40 進捗状況の発表 連絡事項	16:20 ●座長グループ 1 の発表 17:30 ディスカッションの結果を 発表 (PPT 約 5 枚) (4 グル ープ) 17:45 連絡事項	16:20 ●座長グループ 2 の発表 17:30 ディスカッションの結果を 発表 (PPT 約 5 枚) (4 グル ープ) 17:45 連絡事項	16:20 ●交流会 ・中国の大晦日の様子を Zoom で紹介してください ・Q & A 17:40 ・講評、記念撮影 ・報告書・アンケート提出 (2/7 の 24 時まで) ・グループ PPT の提出 ・修了書と中国語のテスト結果 の送付について

図 1. 北京外国語大学：語学研修および日本語学科との交流日程

(3)-4. 研修・交流内容

- ①語学研修：北京外国語大学中国語テキスト “Learn Chinese with Me” (Student’s Book1) 初級場面シラバスを中心として、1月6日(土)～2月3日(土)中国語語学研修 50分×12回、最終日に会話テストを実施。
- ②フィールドスタディ：学生が関心のあるテーマに基づき、北京外国語大学の日文系学生とグループを編成し、交流を図る。グループ全員で発表するテーマを決め、発表内容をディスカッションする。
- ③三重大学の学生は、2グループに分かれて、三重(日本)の地域や文化について紹介をする。北京外国語大学の学生も、5グループに分かれて、中国や日本の大晦日・正月文化について紹介する。

(4) 実施結果

(4)-1. 中国語(北京語)語学研修

事業実施前に、Wang Tong 先生と Zoom で 2 回打合せを行い、指導方法やブレイクアウトルームの使い方について説明した。1 回 50 分を 12 コマ実施した、最終授業で一人ずつ既習範囲の文型について会話テストを実施し、平均点 86 点で好成績を得た。また、最終日は昨年度受講学生の希望を生かし、北京外国語大学の有志の協力により中国語での会話練習を行った。



図 2. 中国語研修の Zoom の学習風景

(4)-2. 日本語学科との交流活動

1) 実施前の準備作業：

日本語学科の費曉東先生とは Zoom で打合せを行い、本事業についてご理解および事業実施の協力を得た。両大学の学生には実施前の参加申込書に、どんなテーマで検討したいか第 1～3 希望を書いてもらい、参加者の希望に沿って 6, 7 名ずつの 3 グループを編成した。毎回ブレイクアウトセッションで協議した。

2) 座長グループの発表内容：

以下のテーマが各グループの発表テーマとなった。実際にどの座長グループのテーマについてディスカッション

するか人気投票を行った。その結果、②「敬語は必要か否か」(1月31日)「働く女性にとって子供を産む必要があるかどうか?」(1月24日)のテーマでディスカッションをすることになり、他の2座長グループの発表は、最終日に紹介された。

①食文化グループ(三重大学2+北京外国語大学2名)「大皿で食べるのと一人用皿で食べるのと、どちらがいいか?」

中国料理の特徴は大皿をシェアして食べる習慣があり、家族や共同体の絆を強くする。日本にも正月料理などシェアして食べる料理があるが、銘々お膳で食べるという習慣もあった。料理の食べ方はいろいろあるが、どちらの形式がよいかという内容のテーマだった。



図3. 「大皿で食べるのと一人用皿で食べるのと、どちらがいいか?」

②マナーや挨拶グループ(三重大学2+北京外国語大学3名)「敬語は必要か不要か?」2024年1月31日

敬語は、敬語は聞き手に敬意、思いやりを表す言葉で、上下関係や親疎関係を表すことができる。しかし、最近敬語は乱れがちで、敬語を意識すればするほど相手との距離感を感じさせてしまう。敬語は必要か不要かディスカッションした結果、座長以外の2グループは人間関係を円滑するものとして、必要だという結論だった。最後に座長グループから中国語の敬語の状況について補足説明があった。

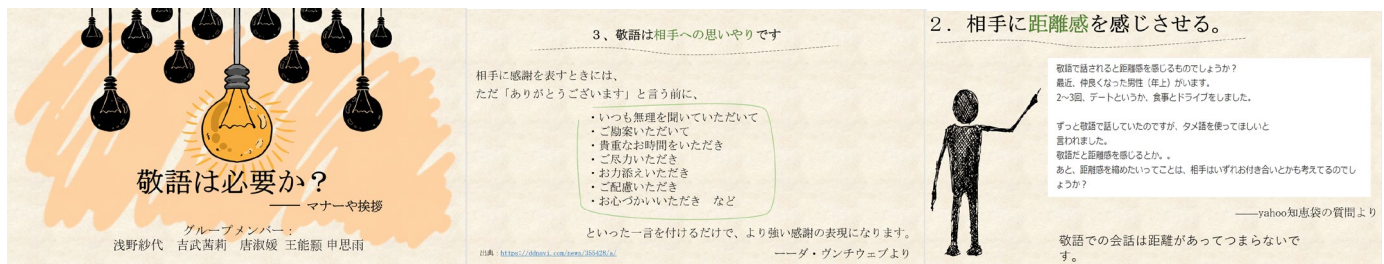


図4. 「敬語は必要か不要か?」2024年1月31日

③文化グループ(三重大学1+北京外国語大学4名)「流行語を公で使うのは良いか悪い?」

まず、流行語とは何かという定義があった。公の場ではできるだけ広く理解されやすい表現を用いることが求められる、相手との意思疎通が円滑に進む。一方、不適切な流行語の使用は、他者との関係を損ねる可能性もある。他者を傷つけてしまわないように適切な表現を心がけるべきだが、流行語が1番使い易く、伝わり易いことがあるので、何より言葉を選択することが求められる、という説明があった。

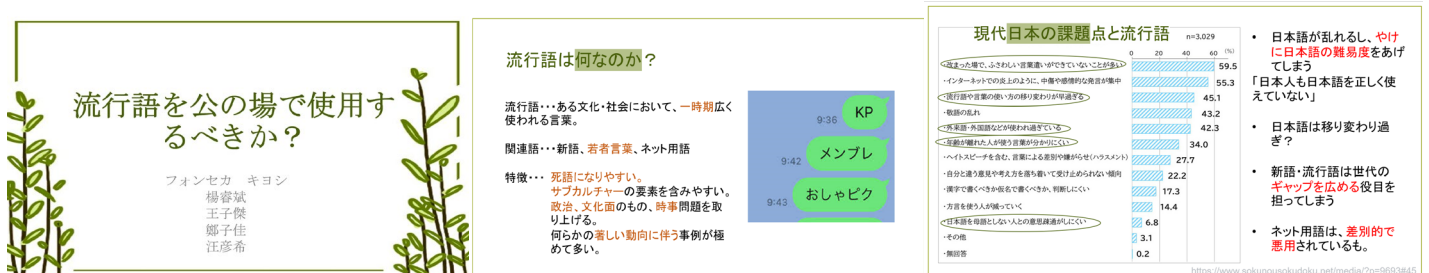



図5. 「流行語を公で使うのは良いか悪い?」

#### ④その他（社会）グループ「働く女性にとって子供を産む必要があるかどうか？」（北京外国語大学4名）

「子供を産む意味が分からない」と考える人は若い世代に増えている。年々出生率は下がる傾向にあり、育児費用や働く女性には負担が多い。子供を産むメリットとデメリットを紹介された。①出産時には、女性が一時的に職場を離れ、キャリア開発の機会を逃し、昇進機会の減少などに直面する可能性がある、②働く女性は出産後、家庭と仕事のバランスを取る必要があり、仕事のパフォーマンスに影響を与える可能性がある。今後、働く女性にとって、子供を産むかどうかを決める際には、自分のキャリアプラン、家庭の状況、経済力などの要素を十分に考慮し、最も自分に合った選択をするべきだ、と結論を出したグループが多かった。

### 働く女性にとって 子供を産む必要があるかどうか



グループ 4：郭星彤 謝沁田 陳倩倩 王成瀚

#### 子どもを産むデメリット：

**キャリアと職業競争力への影響：**  
出産時には、女性が一時的に職場を離れ、キャリア開発の機会を逃し、昇進機会の減少などに直面する可能性があります。また、働く女性は出産後、家庭と仕事のバランスを取る必要があり、仕事のパフォーマンスに影響を与える可能性があります。

**健康問題：**  
出産プロセスは、女性の身体的健康に影響を与える可能性があり、一定の回復期間を必要とする産後の合併症や健康問題が発生します。

**経済的プレッシャー：**  
出産後、子供の養育・教育などの費用を含むより多くの経済的負担を負う必要があり、働く女性の経済的プレッシャーを高める可能性があります。

— <https://afmarri.jp/child/merit-demerit>

#### 子どもを産むメリット：

**新しい人生経験や達成感をもたらす：**  
出産は人生の重要な一部であり、人生の価値を感じ、個人的な達成感を高めます。

**家族の暖かさを楽しむ：**  
子供と一緒に成長し、母親に無限の喜びをもたらす。家族の暖かさと家族の楽しさを感じさせます。また、家族のメンバーがより団結し、子供の成長と教育のために一緒に働くことを可能にします。

しかし、これらのマイナスの影響は人によって異なります。働く女性にとって、子供を産むかどうかを決める際には、自分のキャリアプラン、家庭の状況、経済力などの要素を十分に考慮し、最も自分に合った選択をするべきです。同時に、社会は働く女性により多くの支援と保障を提供し、彼女たちの負担と圧力を軽減しなければなりません。

— <https://afmarri.jp/child/merit-demerit>

図 6. 「働く女性にとって子供を産む必要があるかどうか？」

#### 3) 中国や日本の大晦日・正月文化について紹介：

日本：①初詣（→バレンタインデーに変更）、②正月料理

中国：①獅子舞、②大晦日のTV番組、③大晦日爆竹、④正月花火、⑤大晦日料理

### 獅子舞

グループ 1: 陳倩倩  
胡新悦  
獅子佳



!中国&日本!  
お正月の人気テレビ番組  
—— 申思雨 王子榮 謝宇豪

爆竹  
——春節の風物詩  
北京外国語大学: 王能顯 唐淑媛

図 7. 中国や日本の大晦日・正月文化について紹介

#### (5) 事業のアンケート結果

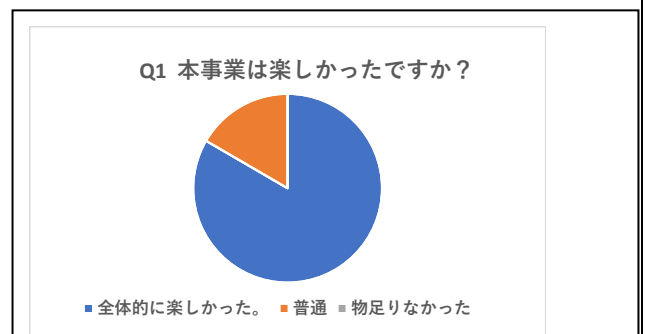
本事業全体については、回収率が低かったのが残念だったが（回収率 38%）、「全体的に楽しかった」という回答が 83.6% だった。

##### (5)-1. 中国語（北京語）語学研修

<感想>

・基本的な文法や多くの語彙を短期間で学びなおすことができ、また、発音指導もしてくださり、自分1人では勉強できないところできてよかったです。中国語を実践的に使ったことがなかったので、難しかったです。北京外国語大学の学生さんと中国語で話せてよかったです。

・授業の第2言語を履修した後、英語以外の言語に触れる機会がほとんどなかったので、今回この事業に参加できてよかったです。今後も中国語を勉強したいな、発音がもっともうまくなりたいなと思いました。



## (5)-2. 両大学の学生と日本語による交流活動

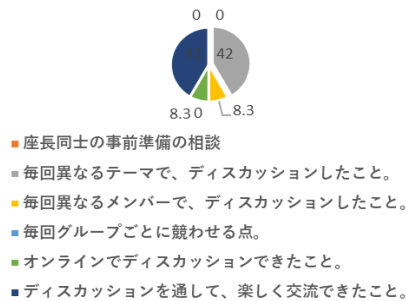
「日本語学科との交流活動で特に何が楽しいと思えましたか？」では、毎回異なるテーマでディスカッションしたこと、ディスカッションを通して楽しく交流できたことだった。また、北京外国語大学の学生への質問では、「見時間時間だったが、日本語が実践で使えてよかった」「三重大学の学生と交流ができてよかった」との回答が多かった。



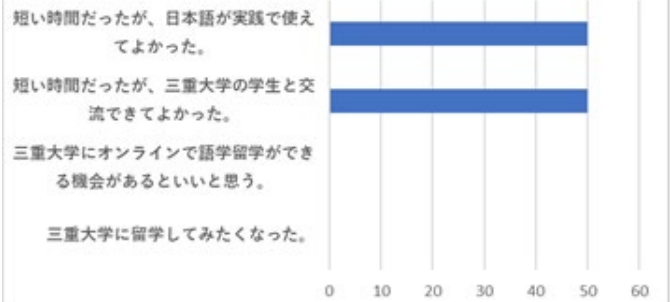
### 〈感想〉

- ・修了証書の送付，誠にありがとうございます。この度は貴重な交流の機会を与えていただき，心より感謝申し上げます。三重大学の学生たちとの交流は，非常に大切な経験だと思っております。お忙しい中，私たち学生の成長を支えてくださり，心より感謝申し上げます。
- ・三重大学の皆さんも積極的で，ディスカッションも面白くて，いつもよい雰囲気を感じていた。今回の活動に参加し，皆さんと一緒に楽しく交流し，いろいろな両国の文化を習得して本当に良かったと思います。
- ・今回のフィールドスタディは短かったが，意味深いと思います。ディスカッションのテーマは面白くて，交流もできて，本当に来て良かったと思います。中国文化に関するディスカッションは，私達中国学生に改めて自分の文化について深く考えさせてくれました。外国の方は中国文化をどう思っているのかも知り，非常に新鮮な感じがしました。三重大学はどのような大学なのかもっと知りたいです。
- ・オンラインでの三重大学の学生の方とコミュニケーションできて良かったです。みんな明るくて優しいです。
- ・今回の交流を通じて，日本の学生さんと交流ができ，中日両方の伝統文化への理解も深まりました。素晴らしい思い出を作ってください，ありがとうございました。

Q2. 特に何が楽しいと思えましたか？



Q3 北京外国語大学の皆さんへの質問



## (6) 事業の意義

(5) で報告した結果から，本事業の意義として次4点が挙げられる。

- ①本来移動や経費を伴う語学研修であるが，オンラインで実施することによって海外協定校の学生交流活動も意義ある活動だった。
- ②本学の学生と協定校の学生との相互交流や異文化理解に貢献できた。
- ③協定校との国際交流を持続発展させることができた。
- ④三重大学の学生の第2言語の習得に役立つ事業だった。

## (7) 事業の発展性

- ①協定校との国際交流を持続発展させることができる。

- ②日本人学生の語学研修を含め、海外留学支援を推進できる。
- ③本事業を継続させることによって、三重大学（大学院）への留学生の獲得に貢献できる。
- ④文化や言語の異なる学生が参加する国際共修型のCOIL授業を展開できる。
- ⑤世界で活躍できるグローバル人材を育成することができる。

**（８）中期目標・中期計画における位置づけ** \*本事業は、この目的に合致したプログラムの実施であった。

中期目標・中期計画（８）-1「学生の海外派遣の拡大や、優秀な留学生の獲得と卒業・修了後のネットワーク化、海外の大学と連携した国際的な教育プログラムの提供等により、異なる価値観に触れ、国際感覚を持った人材を養成する。」

- ①文化や言語の異なる学生が参加する国際共修型のCOIL授業を展開できた。
- ②優秀な留学生を戦略的に獲得・教育していくために、日本語教育プログラムを充実させることができた。
- ③様々なバックグラウンドを有する人材との交流により学生の視野や思考を広げることができた。
- ④グローバルな視点を持って国際的に活躍できる人材を育成するため、オンラインではあったが、在学中に海外留学を体験させることができた。

## Online Language Training & Field Study:

### -Chinese language training at Beijing Foreign Studies University and student exchange with the Japanese department-

Fukuoka Masako (Center for International Education & Research)

#### (1) Implementation content:

The rapid progress of the Chinese economy has been remarkable, and so economic, social, and cultural activities between Japan and China will continue to be important in the future. Therefore, the purpose of this program is to provide students at our university with an opportunity to learn about the Chinese language and modern China during their studies, and to develop human resources who, in future, will play an active role internationally. The purpose of this project is to (1) learn Chinese, (2) learn about modern China, (3) promote interaction among students through collaborative learning, and (4) learn about the culture and society of the cities we visit. In cooperation with Beijing Foreign Studies University's Chinese and Japanese departments and the administrative office, we planned Chinese (Mandarin) classes and exchanges with Japanese students. In addition, I learned about modern China by connecting with the Japan-China Economic Association Beijing office via Zoom.

#### (2) Implementation details

##### 1) Schedule

I. January 6th (Sat) - February 3rd (Sat) : Chinese language training

II. January 10th (Wednesday) - February 7th (Wednesday) Exchange activities between Mie University students and students of the Japanese Department of Beijing Foreign Studies University

##### 2) Participants

• From Mie University, 5 students: 1 x 1st year student, 1 x 3rd year student, 3 x 4th year students, 1 male and 4 female

• From Beijing Foreign Studies University, 14 students: Department of Japanese (2 x first-year students, 11 x second-year students, 1 x graduate student), 5 males and 9 females. \*Attendance rate: Chinese (Mie University): 85%; Exchange with the Japanese Department: Mie University 80%, Beijing Foreign Studies University: 86%

##### 3) Teachers/Lecturers and Person in charge:

International Exchange Center, Mie University: Prof. Masako Fukuoka; Lecturer in the Japanese Language Department, Beijing Foreign Studies University : Asst. Prof. Fei Xiaodong; Ms. Wang Tong (Musashino University)

##### 4) Contents of training and exchange

①Language training: 50 minute sessions of Chinese language training from January 6th (Saturday) to February 3rd (Saturday), focusing on the beginner scene syllabus of the Beijing Foreign Studies University Chinese textbook "Learn Chinese with Me" (Student's Book 1). A conversation test was conducted on the last day of the 12th session. ②Field study: Students formed groups with Japanese literature students from Beijing Foreign Studies University based on themes they are interested in and then interacted in their groups. The

group decided on a theme for presentation and discussed the presentation contents. ③ Mie University students were divided into two groups and introduced the region and culture of Mie (Japan). Students from Beijing Foreign Studies University were also divided into five groups to introduce New Year's Eve and New Year's culture in China and Japan.

●2023年度 三重大学中国語学習研修&北京外国語大学フィールドスタディ 日程表

1/6 (土) ⇐	1/13 (土) ⇐	1/20 (土) ⇐	1/27 (土) ⇐	2/3 (土) ⇐
三重大学対象の中国語講座⇐	⇐	⇐	⇐	⇐
中国語オリエンテーション	9:00 Zoom入室⇐	9:00 Zoom入室⇐	9:00 Zoom入室⇐	9:00 Zoom入室⇐
Wang Tong 先生のご紹介⇐	9:05～9:55 中国語③⇐	9:05～9:55 中国語④⇐	9:05～9:55 中国語⑤⇐	9:05～11:00 意テスト⇐
10:05～10:55 中国語①⇐	10:05～10:55 中国語②⇐	10:05～10:55 中国語③⇐	10:05～10:55 中国語④⇐	11:00～11:55 ③中国語交流⇐
11:05～11:55 中国語②⇐	11:05～11:55 中国語③⇐	11:05～11:55 中国語④⇐	11:05～11:55 中国語⑤⇐	北京外大の学生さんと中国語⇐
⇐	⇐	⇐	⇐	で会話チャレンジ⇐
11:55～12:00 連絡事項⇐	11:55～12:00 連絡事項⇐	11:55～12:00 連絡事項⇐	11:55～12:00 連絡事項⇐	11:55～12:00 ⇐
⇐	⇐	⇐	⇐	Wang Tong 先生の講評⇐
⇐	⇐	⇐	⇐	⇐
1/10 (水) ⇐	1/17 (水) ⇐	1/24 (水) ⇐	1/31 (水) ⇐	2/7 (水) ⇐
16:20⇐	16:20⇐	16:20⇐	16:20⇐	16:20⇐
①費曉東先生のご紹介&お⇐	①ディスカッションの方法に⇐	●座長グループ1の発表⇐	●座長グループ2の発表⇐	●交流会⇐
話-中国の春節について⇐	②座長グループ検討会⇐	⇐	⇐	・中国の春節の様子をZoom⇐
⇐	・PPT資料準備 (PPT約8枚) ⇐	⇐	⇐	で紹介してください⇐
16:40⇐	⇐	⇐	⇐	・Q&A⇐
②両大学の学生の対面式⇐	⇐	⇐	⇐	⇐
(自己紹介) ⇐	⇐	⇐	⇐	⇐
③テーマ・マッチング group ⇐	⇐	17:30⇐	17:30⇐	17:40⇐
の発表⇐	⇐	ディスカッションの結果を⇐	ディスカッションの結果を⇐	・講評、記念撮影⇐
④模擬ディスカッションの⇐	⇐	発表 (PPT約5枚) (4グル⇐	発表 (PPT約5枚) (4グル⇐	・報告書・アンケート提出⇐
体験⇐	⇐	ープ) ⇐	ープ) ⇐	(2/7の24時まで) ⇐
⑤模擬ディスカッションの⇐	⇐	⇐	⇐	・グループPPTの提出⇐
結果を発表 (PPT1枚) ⇐	⇐	⇐	⇐	・修了書と中国語のテスト結果⇐
17:45 連絡事項⇐	17:40 進捗状況の発表⇐	17:45 連絡事項⇐	17:45 連絡事項⇐	の送付について⇐
⇐	連絡事項⇐	⇐	⇐	⇐

Figure 1, Beijing Foreign Studies University: Language training and exchange schedule with the Japanese Department

### (3) Implementation results

#### (3)-1. Chinese (Mandarin) language training

The students achieved good results with an average score of 86 points. On the last day, we took advantage of the wishes of last year's students and practiced conversation, in Chinese, with the cooperation of volunteers from Beijing Foreign Studies University.

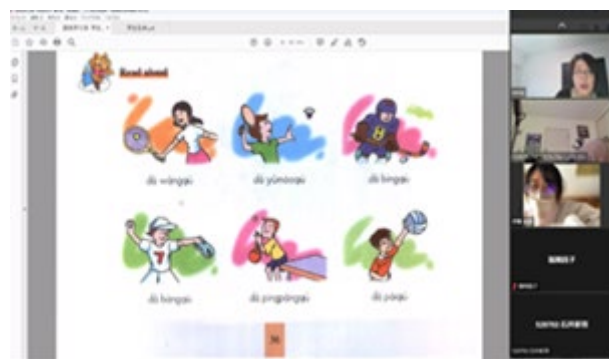


Figure 2, Zoom learning - Chinese training

#### (3)-2. Exchange activities with the Japanese language department

##### 1) Preparatory work before implementation:

I had a Zoom meeting with Professor Fei Xiaodong of the Japanese Language Department and obtained his understanding and cooperation in implementing this project. As a result, we decided to examine the cultural comparison between Japan and China and introduce the region for each group. Students from both universities were asked to write their 1st to 3rd preferences on the application form before the event, and three groups of 6 or 7 students were formed according to the participants' preferences. Discussions were held in breakout sessions, and the following themes were the presentation themes for the groups.

## 2) Presentation content of each group:

### ① Food culture group (2 people from Mie University + 2 people from Beijing Foreign Studies University)

#### “Which is better, eating from a large plate or from a single plate?”

A distinctive feature of Chinese cuisine is the custom of sharing large plates of food, which strengthens family and community bonds. In Japan, there are dishes such as New Year's dishes that are eaten as a shared meal, but there is also a custom of eating from an individual plate. There are many ways to eat food, but the theme was to explore which format is best.



Figure 3, “Which is better, eating from a large plate or from a single plate?”

### ② Manners and Greetings Group (2 people from Mie University + 3 people from Beijing Foreign Studies University) “Is honorific language necessary or unnecessary?” January 31, 2024

Keigo is a way of speaking that shows respect and consideration for the listener, and can express hierarchical relationships or close and estranged relationships. However, these days, honorific language tends to get messy, and the more you pay attention to honorific language, the more you feel a sense of distance from the other person. Is honorific language necessary or not? As a result of the discussion, it was concluded that the two groups other than the chairperson were necessary to facilitate human relations. Finally, the chair group provided additional explanations about the state of honorific language in Chinese.

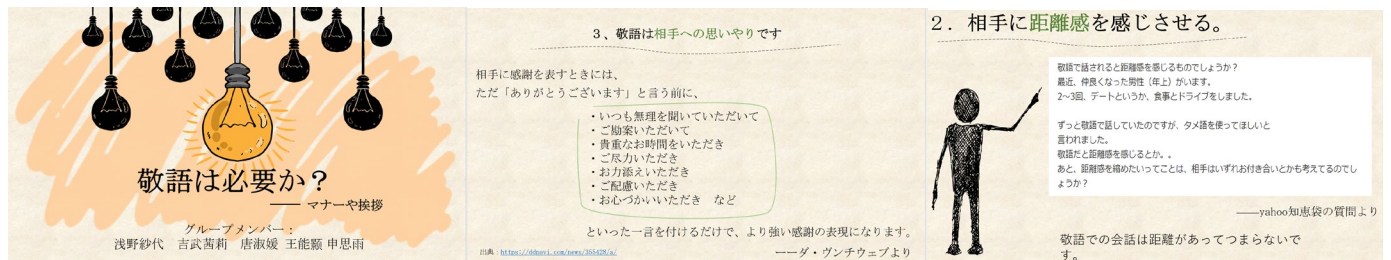


Figure 4, “Is honorific language necessary or unnecessary?”

### ③ Culture Group (1 person from Mie University + 4 people from Beijing Foreign Studies University) “Is it good or bad to use buzzwords in public?”

First, there was a definition of what a buzzword is. In public, it is necessary to use expressions that are as widely understood as possible, and which facilitate smooth communication with others. On the other hand, using inappropriate buzzwords can also damage relationships with others. It was explained that people should try to use appropriate expressions to avoid hurting others, but that buzzwords are the easy to use and can convey the message well, so, more than anything else, it is important to choose your words.

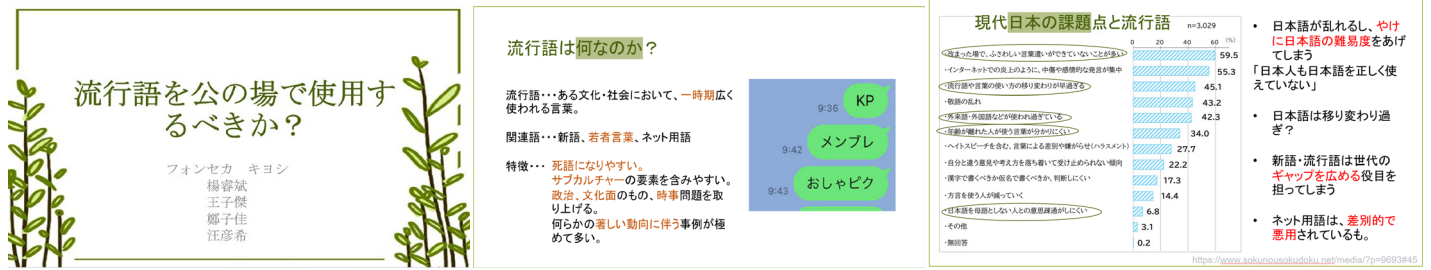


Figure 5, Is it good or bad to use buzzwords in public?"

④Other (society) group “Is it necessary for working women to have children?” (4 people from Beijing Foreign Studies University)

The number of people who state that they don't understand the point of having children is increasing among the younger generation. The birth rate is decreasing year by year, and there is a heavy burden on working women in terms of childcare costs. The advantages and disadvantages of having a child were introduced. ① When giving birth, women may temporarily leave the workplace, miss out on career development opportunities, and face reduced opportunities for promotion. ② Working women need to balance family and work after giving birth, which can affect work performance. The study concluded that working women should carefully consider factors such as their career plans, family situation, and financial strength when deciding whether to have children and make the choice that best suits them. There were many groups that issued ????

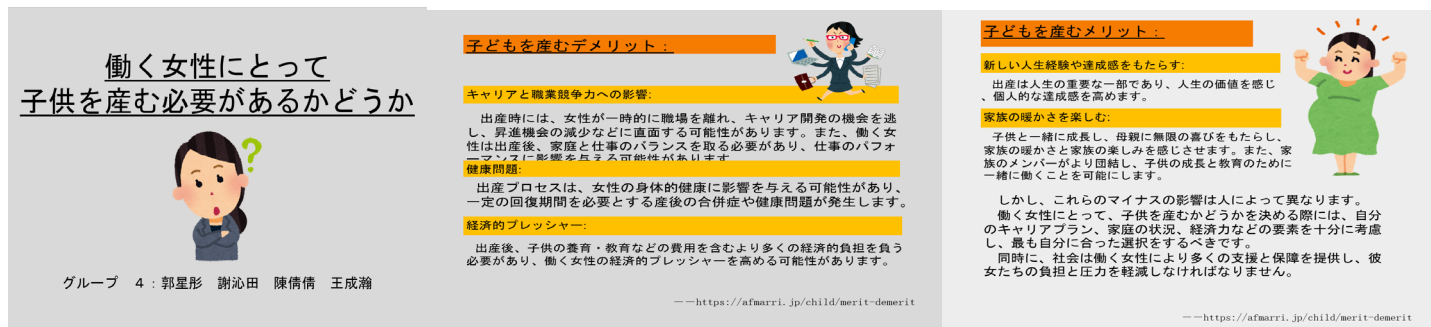


Figure 6, “Is it necessary for working women to have children?”

3) Introduction to New Year's Eve and New Year's culture in China and Japan:

Japan: ① New Year's visit (changed to Valentine's Day), ② New Year dishes

China: ① Lion dance, ② New Year's Eve TV program, ③ New Year's Eve firecrackers, ④ New Year's fireworks, ⑤ New Year's Eve cuisine

獅子舞

グループ 1: 陳倩倩  
胡新悦  
鄭子佳



Figure 7, Introduction to New Year's Eve and New Year's culture in China and Japan

#### (4) Business survey results

Regarding this project as a whole, it was disappointing that the survey collection rate was low. The response rate was only 38%, but 83.6% of respondents said that they enjoyed the program overall.

・ Thank you very much for sending me the certificate of completion. I would like to express my sincere gratitude for giving me this valuable opportunity to interact with you.

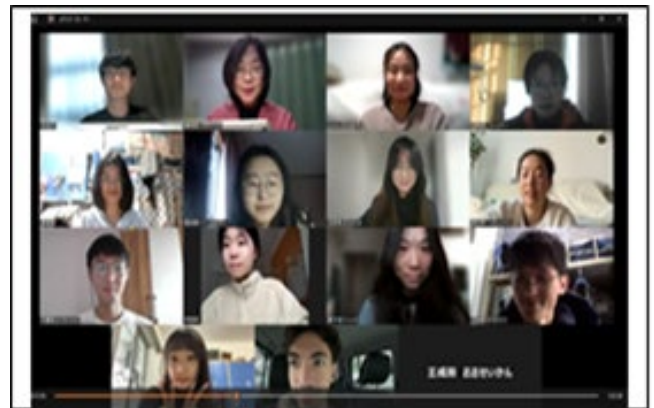
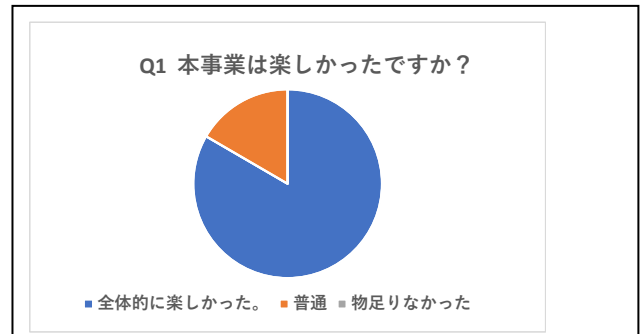
・ Here is my form. I believe that interacting with Mie University students is a very important experience. Thank you from the bottom of my heart for taking the time out of your busy schedules to support the growth of our students.

・ Everyone at Mie University was active, the discussions were interesting, and I always felt like there was a good atmosphere. I am really glad that I was able to enjoy this activity, interact with Mr. Saka and everyone, and learn about various cultures of both countries.

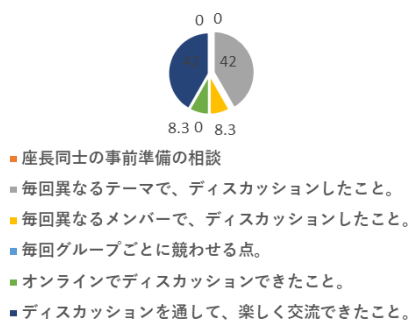
・ Although this field study was short, I think it was meaningful. The discussion topics were interesting and we were able to interact with each other, so I'm really glad I came. The discussion about Chinese culture made us Chinese students think deeply about our own culture, and we learned what foreigners think about Chinese culture, which was very refreshing. I would like to know more about what kind of university Mie University is.

・ It was great to be able to communicate with Mie University students online. Everyone is bright and kind.

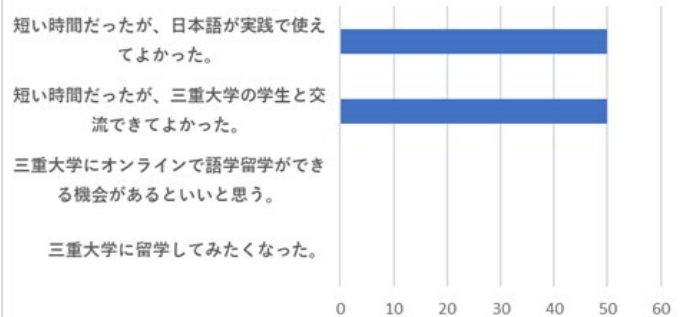
・ Through this exchange, I was able to interact with Japanese students and deepen my understanding of the traditional culture of both China and Japan. Thank you for creating wonderful memories.



#### Q2. 特に何が楽しいと思えましたか？



#### Q3 北京外国語大学の皆さんへの質問



#### (5) Significance of the project

Based on the results reported in (4), the following four points can be raised regarding the significance of this project.

① Language training traditionally involves travel and expenses, but by conducting it online, student

exchange activities at overseas partner schools were also a meaningful activity without the expense.

- ② The project was able to contribute to mutual exchange and cross-cultural understanding between our students and students from partner schools.
- ③ We were able to sustainably develop international exchange with partner schools.
- ④ It was a project that helped Mie University students learn a second language.

#### **(6) Business development potential**

We can consider the following five items as business development possibilities, and we would like to consider the continued development of this online business even in the post-corona era.

- ① Sustainable development of international exchange with partner universities.
- ② Promote support for studying abroad, including language training for Japanese students.
- ③ Continuation of this project will contribute to attracting international students to Mie University (graduate school).
- ④ International co-educational COIL classes can be developed in which students from different cultures and languages participate.

#### **(7) Medium-term goals/medium-term plans**

We aim to achieve different goals by expanding the number of students dispatched overseas, acquiring talented international students, networking after graduation, and providing international educational programs in collaboration with overseas universities. We seek to cultivate human resources who are exposed to diverse values and have an international mindset."

- ① We were able to develop an international collaborative COIL class in which students from different cultures and languages participate.
- ② We were able to enhance our Japanese language education program in order to strategically acquire and train talented international students.
- ③ Students were able to expand their perspectives and thinking through interaction with people from various backgrounds.
- ④ In order to develop human resources who have a global perspective and can play an active role internationally, we were able to allow students to experience studying abroad while avoiding the costs and difficulties of physical attendance.